

韓国における早期英語教育

- 釜山広域市小中学校英語没入教育特別職務研修プログラムを通して -

師子鹿 元 美

Early English Education in Korea

Motomi SHISHIKA

1. はじめに

日本では平成20年3月に新しい小学校学習指導要領が告示され、小学校5年生と6年生に外国語活動が必修化された。2011年度から完全実施され、年間35時間の外国語活動が必修となる。そこに至るまでの動きをさかのぼると、平成4年に「英語学習を含む国際理解教育」を研究課題とした研究開発学校が指定され、平成8年にはすべての都道府県に研究開発学校が指定された。平成10年に新学習指導要領が告示され、平成14年度から「総合的な学習の時間」において国際理解の一環としての外国語会話などの実施が可能になった。1990年代に公立小学校での英語教育について国レベルでの議論が始まってから必修化まで約20年近くの年月が要された。

日本で小学校への英語教育の導入について研究がなされている間に、韓国ではすでに1995年から1997年にかけて英語教育の試験実施が行われた。1997年から小学校3年生に英語が必修となり、翌年に3, 4年生、その翌年に3, 4, 5年生へと年次的に導入された。東アジア諸国においては中国と並んで、いち早く小学校における英語教育に取り組んでいる韓国では、小学校の英語教育における問題点や課題なども報告されており、日本の英語教育を考える上で参考

になる点がおおいにある。筆者は2007年8月6日から8月10日まで特別の許可をもらい韓国釜山広域市の小中学校教員英語特別研修に参加する機会を得た。ここでは釜山広域市小中学校英語没入教育特別職務研修プログラムを通して、韓国における小学校英語教育について考えたい。

2. 小学校への英語教育の導入とその背景

韓国では1954年に朝鮮休戦協定が成立したあと、さまざまな教育改革がなされてきた。国家の復興、教育の再建、普及が大きな課題であり、民主化教育が目標であった第1次教育課程(1954~1963)から始まり、第2次教育課程(1963~1974)、第3次教育課程(1974~1981)、第4次教育課程期(1981~1987)、第5次教育課程期(1988~1991)、第6次教育課程期(1992~1996)と続き、現在は第7次教育課程のもとで教育が実施されている。

英語教育に関連して特筆すべきは、第4次教育課程期がはじまる1981年から小学校4年生以上に特別活動の中で英語が開始されたことである。1980年代韓国は経済的に大きく発展し、1988年に第42回オリンピックがソウルで開催されたこともあり、韓国が国際化にむけて真剣に取り組み始めた時代であるといえる。1975年には国民一人当たりの所得が560ドルであったが、

1979年には1,510ドルにも達した(河合忠仁、2003)。

さらに、1995年から2年間試行された後、1997年から3年生に英語が教科として週2時間、年間68時間教えられることになった。当初の予定とは異なり、まず3年生に、翌年3、4年生にと年次的に導入された。さらに2006年から2008年まで国内50の小学校で1、2年生を対象に英語が試験的に教えられている。今後小学校において英語教育の完全実施が実現することになるであろう。

3. 小学校英語教育の現状と課題

日本において小学校への英語教育の導入が議論される時一番問題になることは誰が教えるか、すなわち指導者をどのように養成するかであった。韓国でも教育課程の改定に先立ち、教育部(日本の文部科学省にあたる)が専門家らと作った研究委員会で作成した試案の中で、英語教育に対する大規模なアンケート調査結果が次のように報告されている。

「本基礎調査の結果、国民学校英語教育の方法と評価を、教育の目標を達成する水準で実施することができるようにするためには、何よりも教師の英語駆使力の確保が必須である、ということを確認することができた。また教師は児童中心の授業方法をよく知っていて実施することができる教授技術を備えた人たちでなければならない、という点を確認させてくれた。以前のように、教師中心の韓国語による説明で小学校英語教育を実施するとしたら、国民学校英語教育は中等学校の非効率性と非効果を踏襲する結果を招いてしまう。」(樋口忠彦、1997)

アンケート調査結果から、日本と同様中学校、高等学校での英語教育の問題点、すなわち「6年間も英語を勉強しているのに話せない」という生徒たちの実態を直視し、その反省をもとに小学校での英語教育はそれまでの中学校、高校のそれとは変えなければならないという強い思いが感じられる。

小学校での英語教育が効果的かつ効率的に行

われるために教師の英語運用能力が大事であるとして、韓国では英語教育の実施とあわせて現職の小学校教員の研修も義務づけて行ってきた。

表1はソウル市教員研修センターが必修化当初にソウル市内の現職教員を対象に行った研修プログラムの内容である。教員のコミュニケーション能力の向上や教授法、教材や資料作成などに重点が置かれたプログラムになっている。特に教員のコミュニケーション能力の向上に全体の7割近くの時間が割かれていることは、現在のイメージ教育を視野に入れた韓国政府の教育政策の方向を予測させるものとなっている。

表1 ソウル市教員研修センター「教育の世界化(国際化)と初等英語教育

	時間数(比率)	
	1996年	1997年
総研修時間	120(100.0)	120(100.0)
意思疎通能力	68(56.7)	88(73.3)
教育課程	4(3.3)	2(1.7)
資料作成及び活用	6(5.0)	2(1.7)
教授法	26(21.7)	12(10.0)
評価法	2(8.3)	2(8.3)
授業実数	10(8.3)	10(8.3)
その他	4(3.3)	4(3.3)

出典)ソウル市教員研修センター「教育の世界化(国際化)と初等英語教育」

4. 釜山広域市小中学校英語没入教育特別職務研修

(1) 研修の概要

研修期間	2007年7月23日～8月17日 (延べ19日間)
研修時間数	@350分×19日
受講生	小学校教員：58名 中学校教員：13名
研修会場	釜山外国語大学校

上記のように研修は夏休み中の7月23日から8月17日の間、土、日を除く毎日9時から16時

50分まで行われた。50分授業が午前中4つ、午後から3つ昼食休憩70分をはさんで、月曜日から金曜日まで毎日行われるというハードなものであった。受講生は研修前にプレースメントテストを受け、12名ずつのクラスに分かれて受講していた(中学校教員は1グループ)。研修は釜山市内の外国語大学の五階と六階を貸しきって行われた。

(2) 研修プログラムの内容

この研修は釜山広域市教育委員会が主催したもので、研修の企画運営の中心的役割を果たしているのは、釜山広域市教育庁学校政策課のジョン・ウ・ニさんであった。ジョンさんがアメリカのテネシー大学大学院で修士号を取得した時の指導教授が、今回のセミナーの客員講師であるブラウン博士であったとのことである。

釜山広域市では、小学校の英語教育へのイマージョンプログラムの導入を考えており、今回の研修はそれを視野に入れたものになっていた。受講者には240ページにも及ぶA4版のテキストが配布されており、このテキストをもとに研修プログラムの内容について紹介したい。

研修内容は大きく3つに分かれている。パート1ではイマージョンプログラムの理論的背景の講義、演習、さらにイマージョンプログラムによる数学、科学、図画、工作、社会の教授方法がレッスンプランとともに提示されている。パート2では、韓国人講師による第2言語習得理論や英語教授法の変遷などの講義内容が示されている。

さらに「Trends & Issues」として韓国内外で話題になっている次のようなトピックを取り上げた授業資料がおさめられている；1 . Education in Korea 2 . Presidents ' Proposal of a Constitutional Revision 3 . Prostitution in Korea 4 . South Korea's Environmental Issues 5 . Korean Business man in the News .

「Trends & Issues」では教育、環境、南北統一、貿易、テロリズムのそれぞれのテーマに関連する英字新聞からの記事が4つから5つ

ほど収められ、テーマごとに質問やディスカッションの項目が与えられている。興味深いヘッドラインは次のようなものである；Forum urges Asia to take lead on global challenges, Admission row continues, Korea, U.S. to hold talks on revisions of FTA this week, U.S. envoy trip marks concession to N. Korea.

パート3では「Presentation & Composition」の授業資料が収められている。研修生は最後の週に、イマージョンプログラムで教える算数と理科のレッスンプランを作成し、プレゼンテーションを行うことになっている。ブラウン博士とESL教師達はそのプレゼンテーションを評価し、優秀者にはさらに次の研修プログラムの参加許可が与えられるということであった。

(3) Content-Based Approach(CBA)のワークショップ

Content-Based Approachは「内容中心の教授法」とも言われ、Krashenのメッセージが理解されたときに習得が起こるとする「インプット仮説」に基づき、メッセージの内容(content)の伝達に重点をおく教授法である。イマージョンプログラムのもとでは、この指導理論に基づき、同じ第一言語を持つ子どもたちに第二言語を使って学校教育が行われる。すなわち算数、理科、社会といった科目を第二言語(韓国の場合は英語)で学ぶことになる。テキストの中で、イマージョンプログラムの実践校として日本の加藤学園(静岡市)を含む東アジアのいくつかの小学校が紹介されている。

この研修で最大のハイライトとされたのが、テネシー大学のブラウン博士による「content-based instruction」についての講義、演習であり、続いてテネシー大学のESL講師3名によるCBAに基づく模擬授業とワークショップであった。ブラウン博士の授業とESL講師の授業が始まる日からちょうど筆者も研修に参加し、4日間にわたる10時間のブラウン博士の講義、演習と14時間ちかくのESL講師たちの授業を他の韓国人教員たちと緊張しながらも楽し

表2 C B Aによる理科の授業の概要

Unit : Green Thumb

Objective :	In this unit, students will learn the structure and function of plants at macroscopic and microscopic levels. They will learn to record experimental observations in a lab report and obtain basic science vocabulary
Grade Level :	3 , 4 , 5
Content Area :	Science

Sub-unit 1 : Plant Structure and Functions

Objective :	<p>Content -</p> <p>Students will be able to recognize the structures of a plant.</p> <p>Students will be able to identify the function of each of the plant structures.</p> <p>Language -</p> <p>Students will be able to describe plant structures and detail their functions orally and in writing.</p> <p>Students will be able to write a lab report based on experimental observations.</p> <p>Learning Strategy -</p> <p>Students will be able to take notes on experimental observations and write a lab report based on the notes taken.</p>
Procedures :	<p>1 . Priming</p> <p>2 . Navigating 1 : Plant structures</p> <p>3 . Navigating 2 : The functions of plant structures</p> <p>4 . Amplifying</p> <p>5 . Assessment</p>

Sub-unit 2 : Plant Cell

Objective :	<p>Content -</p> <p>Students will be able to recognize that plants are made up of smaller parts.</p> <p>Students will be able to identify organelles in a plant cell.</p> <p>Students will be able to identify function of organelles.</p> <p>Language -</p> <p>Students will be able to reword/rephrase information found in text.</p> <p>Students will be able to compare/contrast items in writing.</p> <p>Learning Strategy -</p> <p>Students will be able to use a semantic map to plan writing.</p>
Procedures :	<p>1 . Priming</p> <p>2 . Navigating 1 : Plant Cell</p> <p>3 . Navigating 2 : Organelles</p> <p>4 . Navigating 3 : Comparison</p> <p>5 . Amplifying</p> <p>6 . Assessment</p>

Sub-unit3:Texture and Form

Objective:	<p>Content -</p> <p>Students will be able to recognize and classify textures (smooth, rough, soft, hard, etc)</p> <p>Students will be able to recognize and classify form (three dimensional, sculpture, illusion, shading)</p> <p>Language -</p> <p>Students will be able to express personal feelings and ideas about art in a coherent manner.</p> <p>Students will be able to use the appropriate degree of formality with different audiences, purposes and setting when showing sculptures to the class.</p> <p>Learning Strategy -</p> <p>Students will be able to connect the concepts of texture and form to line and color</p> <p>Students will be able to utilize chart and organizers before completing oral presentations or writing.</p>
------------	--

Procedures:	1 . Priming 2 . Navigating 1 : Texture 3 . Navigating 2 : Form 5 . Amplifying 6 . Assessment
Sub-unit4:Plant Reproduction	
Objective:	Content - Students will be able to identify the parts needed for plant reproduction. Students will be able to describe the process of reproduction. Language - Students will be able to sequence events in writing. Students will be able to use time order words in a paragraph. Learning Strategy - Students will be able to create a flow chart of plant reproduction.
Procedures:	1 . Priming 2 . Navigating 1 : Parts of plant reproduction 3 . Navigating 2 : Pollination 5 . Amplifying 6 . Assessment

い雰囲気の中で受けることができた。

特に ESL 講師たちによる理科、算数、芸術の模擬授業・ワークショップについては、テキストにそれぞれ21ページ、17ページ、25ページにおよぶ授業実践方法が載せられており、イメージプログラムの実践だけでなく、日本の小学校5,6年生の英語教育を考える上でとても示唆に富んだものであった。科学と美術の授業についての概要は表にまとめているが、ここでさらに詳しくそれぞれの授業について紹介したい。

a) CBA による理科 (Science) の授業

「Green Thumb」とするこのユニットは小学校3年生から5年生までの生徒が、植物の構造や機能をマクロ的にまたミクロ的に学び、観察したことをレポートに記録し、基本的な単語を学ぶことを目的にしている。このユニットは「植物の構造と働き」「植物の細胞」「光合成」「植物の繁殖」の4つのサブユニットから構成されている。それぞれのサブユニットにはそれぞれ内容 (Content) 言語 (Language) 学習方略 (Learning Strategy) について生徒は何かができるようになるかが明記されている。

授業は Priming (下塗り) , Navigating (進行) , Amplifying (展開) , Assessment (評価) の段階を追って順に進められる。生徒は自分の

母語ではなく第2言語または外国語で科目の内容を学ばなければならないので、表や図や実物や絵などを多用してこれから学ぶことの知識を与えることを重視している。研修中も教室には植物の絵や、光合成の図などが張られ、実物もいくつか用意されていた。

CBA は教科の内容を理解することに主眼を置き、それを通して第二言語または外国語の習得を目指している。言語についての目標設定が興味深い。このユニットでは、学んだことを “ 説明したり (describe) 詳細に述べたり (detail) ” 、実験レポートに書いたりすることがあげられている。またテキストから学んだことを “ 別の言葉で言い換えたり (reword/rephrase) ” 、学んだ項目について “ 比較したり (compare) 対比した (contrast) ” 結果を書くことなどもあげられている。

さらに「植物の繁殖」ではどのように繁殖が進むのかを “ 順を追って (sequence) ” 順番を表す言葉を使って書くことなどがあげられている。CBA では内容理解とともに、“ 言い換える ”、“ 比較する ”、“ 対比させる ”、“ 順に述べる ” などの方法を学ばせ、学んだことを論理的かつ客観的に整理し、それをきちんと伝えることができる子どもを育てようとしていることが伺える。

表3 C B Aによる美術の授業の概要

Unit: The Elements of Art

Objective :	This unit introduces students to the basic elements of art. Students will also learn about great artists like Matisse, Picasso, Degas and Monet. Additionally students will have opportunities to create artwork, discuss their artistic preferences and read and write about famous artists.
Grade Level :	Elementary or Middle
Content Area :	Art

Sub-unit 1 : Color

Objective :	<p>Content -</p> <p>Students will be able to recognize and classify colors of the color wheel including primary colors, secondary colors and complementary colors.</p> <p>Students will be able to recognize and classify warm, cool and neutral colors in the works of Van Gogh.</p> <p>Language -</p> <p>Students will be able to test appropriate use of new vocabulary, phrases and structures about color theory through participation in class discussion.</p> <p>Students will be able to compare and contrast colors.</p> <p>Students will be able to read, write and talk about Vincent Van Gogh and his life through a shared reading of "Camille and the Sunflowers- a Story about Vincent Van Gogh."</p> <p>Students will be able to describe feelings and emotions when discussing cool and warm colors.</p> <p>Students will be able to demonstrate what they have learned in a coherent manner.</p> <p>Learning Strategy -</p> <p>Students will be able to construct a chart or other graphic by creating color wheels and rainbows.</p> <p>Students will be able to write a list of instructions for creating a color wheel.</p> <p>Students will be able to utilize charts and organizers before completing oral presentations or writing</p>
Procedures :	<ol style="list-style-type: none"> 1 . Priming 2 . Navigating 1 : The color wheel 3 . Navigating 2 : Complementary colors 4 . Navigating 3 : Warm colors, cool colors and neutral colors 4 . Amplifying 5 . Assessment

Sub-unit 2 : Line and Shape

Objective :	<p>Content -</p> <p>Students will be able to recognize and classify common lines (thick, thin, wavy, straight, etc.)</p> <p>Students will be able to recognize and classify common shapes (circle, square, rectangle, triangle, etc.)</p> <p>Students will be able to recognize and classify lines and shapes in work by Van Gogh, Dali, Matisse and Picasso.</p> <p>Language -</p> <p>Students will be able to read, discuss, and write about various stories and books.</p> <p>Students will be able to express artistic preferences in a coherent manner using new vocabulary.</p> <p>Learning Strategy -</p> <p>Students will be able to create a Venn diagram when comparing and contrasting Matisse and Picasso.</p> <p>Students will be able to utilize chart and organizers before completing oral presentations or writing.</p>
Procedures :	<ol style="list-style-type: none"> 1 . Priming 2 . Navigating 1 : Line 3 . Navigating 2 : Shapes

	5 . Amplifying 6 . Assessment
Sub-unit 3 : Texture and Form	
Objective :	Content- Students will be able to recognize and classify textures (smooth, rough, soft, hard, etc) Students will be able to recognize and classify form (three dimensional, sculpture, illusion, shading) Language - Students will be able to express personal feelings and ideas about art in a coherent manner. Students will be able to use the appropriate degree of formality with different audiences, purposes and setting when showing sculptures to the class. Learning Strategy - Students will be able to connect the concepts of texture and form to line and color Students will be able to utilize chart and organizers before completing oral presentations or writing.
Procedures :	1 . Priming 2 . Navigating 1 : Texture 3 . Navigating 2 : Form 5 . Amplifying 6 . Assessment
Sub-unit 4 : Space, Perspective and Value	
Objective :	Content - Students will be able to recognize and classify space (positive space, negative space). Students will be able to recognize and classify value (darkness, lightness, shade and tint). Language - Students will be able to compare and contrast space and value in artwork. Students will be able to demonstrate what they have learned in a coherent manner. Learning Strategy - Students will be able to use a prior knowledge to link new information with previously learned concepts. Students will be able to utilize chart organizers before completing oral presentations or writing.
Procedures :	1 . Priming 2 . Navigating 1 : Space 3 . Navigating 2 : Value 5 . Amplifying 6 . Assessment

b) CBA による美術の授業

この授業では生徒が美術の基本的要素 - この授業では“色”、“線と形態”、“感触と形”、“物の見え方と明度”を取り上げている - について知り、マチス、ピカソ、ドガ、モネなどの偉大な画家について学ぶとしている。さらには生徒が自分で美術作品を作り、生徒同士でそれぞれの作品について話し合うとしている。このユニット「美術の構成要素」は4つのサブユニットから成り、それぞれのサブユニットは Priming (下塗り), Navigating (進行), Amplifying

(展開), Assessment (評価) の段階を追って順に進められる。

サブユニット1「色」では、実際に色を混ぜ合わせたり、色相表 (color wheel) などを使って第一次色 (primary colors) 第二次色 (secondary colors) 補色 (complementary colors) など色の基本について学ぶ。また美術作品を見ながら、それぞれの色使いでどのような感じがするかなどを生徒に聞きながら授業を進めていく。

このユニットでは生徒にとっては難しいと思

われる専門用語がいくつか出てくるが、身近な例をあげて説明をしたり、実際に行ってみせることで、生徒が母語を介さずに単語の意味を理解できるようにしている。例えば“補う (complementary)”を“My husband and I are complementary. I love to cook and he hates it. He'll do the dishes and I leave them in the sink.”とわかりやすく説明して単語の導入をしている。また、実際に赤色、黄色、青色をそれぞれ混ぜ合わせて、オレンジ色などを作り、基になっている色 (primary colors) とそれを混ぜ合わせてできる色 (secondary colors) を単語と同時に学ばせている。

サブユニット「線と形態」では、ミロやモンドリアンの作品でどのような線がどのように使われているかを生徒に考えさせる。また、マチスとピカソの作品を見て、それぞれの作品でどのような形態が使われているかを調べ、表に類似点や相似点を書かせる。芸術作品をいろいろな視点から鑑賞し、分析を通してその芸術作品を味わっていく。また、教師が形容詞をいくつかあげ、生徒にその形容詞を聞いて思いつく線を書かせる。例えば“踊るような (dancing)”を聞いて感じる線を書き、生徒同士で見せ合い比較するようなペアワークも興味深い。

ペアワークや作品作り、展示、関連するリーディングなどさまざまな活動を行い、生徒は美術の内容を考え学びながら、言葉についてもしっかりと身につけていく。

(4) ブラウン博士の講義

ブラウン博士は content-based instruction (内容中心の指導法) (CBT) について理論と実践の両面から講義を行った。すべて英語で進められたが、受講生からは質問も多く出され、活発なやり取りが行われた。教授は外国語教育の中で多く取り入れられている communicative language teaching (コミュニケーション中心の指導法) (CLT) が、それまでの文法、訳読中心の教授法からすれば、英語運用能力の向上という点では効果があるとしながらも、CLTでのダイアログ練習や場面練習には限界があると

主張している。

韓国系アメリカ人女性であるブラウン博士は、Krashen 博士のもとで学んだということで、講義は Krashen 博士の提唱するナチュラルアプローチの教授理論が色濃く入ったものになっていた。特に、ロールプレイング、歌、ビンゴゲームなどの活動による“input”は、言語の習得という点からは限られた影響しか与えず、意味のあるインプット“comprehensible input”こそが“language fluency”につながる大きな要因であると述べている。

これまでの“英語を話したり聞いたりできるようになることを目指したもの (oral proficiency oriented)”から“英語で学ぶことができるようになること (academic proficiency oriented)”へと、外国語教育は理論的枠組みを変えていかなければならないとするのがこの講義での彼女の一番の主張であった。その変化のために CBT がいかに有効であることを示し、実際にどのように CBT を授業で行うかをワークショップの中で示していった。

5. まとめ

韓国では1997年に小学校に英語が導入されるに当たって、原職の小学校教員に120時間の英語研修が課せられた。そのほかにさまざまな研修が行われ、国をあげて指導者の養成に取り組んできた。国民の英語運用能力の向上が国策として進められた韓国では、導入されてからこの10年間に実施学年が年次的に拡大され、国定テキストが作成され、2008年からは1年生から英語教育が開始されるなど、時代や国民のニーズに合わせて英語教育政策の迅速な転換が図られてきた。

今回の釜山広域市の英語特別研修は、イマージョンプログラムの導入という国の方針に合わせた内容と構成になっていた。もともと英語を第二言語として学ぶ移民の子どもたちの教育に効果があるとされる指導法を、日常生活ではほとんど英語を使う必要のない韓国で、小学校のすべての教科で実施することは難しいかもしれ

ない。まず理科と算数を英語で教えることにしているのは適当な措置であろう。特にCBTは日本でも高学年の授業で少しずつ取り入れられており、今回の研修内容からかなり有意義な示唆を得られた。

今回の研修はイマージョンプログラムの理論と実践方法を学び、同時にほとんどの講義を英語で受けることで教員の英語運用能力の向上も目指したものであった。ブラウン博士の講義やESL教師のワークショップもまさにアメリカの大学の講義と同じようなハイレベルのものであった。さらに講義の中で質問も活発になされ、教授の話に笑いも頻繁に起こり、受講生たちが講義の内容にしっかりついていっていることを実感した。

韓国の先生方の積極性や英語運用能力の高さには目を見張るものがあった。またほとんどの先生が自発的に研修に参加しており、9月からさらに違った研修を受ける予定だという人もいた。やっと英語活動の必修化を決めた日本とは、国レベルでも教員レベルでも英語教育に對

する力への入れ方がまったく違っていると感じた。日本が英語教育の“後進国”にならないよう、進んだ取り組みから学ぶことが多いことを実感した英語研修であった。韓国のイマージョンプログラムが今後どのような実施され、どのような成果をあげるかさらに研究を続けたい。

参考文献

岡秀夫・金森強編著(2007)『小学校英語教育の進め方 - 「ことば」の教育として - 』成美堂
 河合忠仁(2004)『韓国の英語教育政策 - 日本の英語教育政策の問題点を探る - 』関西大学出版部
 金泰勲(2007)「韓国の初等学校における英語教育の現状と課題」教育雑誌 第42号 pp.75 - 94
 樋口忠彦編(1997)『小学校からの外国語教育』研究社

資 料

韓国釜山広域市小中学校英語没入教育特別職務研修内容

日	時 間	内 容
8月6日(月)	9:00 ~ 9:50	テネシー州のESL教員(Michelle)による講義&ワークショップ 「芸術」をいかにCBI(content-based instruction)で教えるか Art of Color
	10:00 ~ 10:50	テネシー州のESL教員(Michelle)による講義&ワークショップ 「芸術」をいかにCBI(content-based instruction)で教えるか Line and Shapes
	11:00 ~ 11:50	カナダ人教員による講義&ワークショップ 5, 6年生対象に社会、数学をどのようにCBI(content-based instruction)で教えるか Topic: Cultural Difference between lifestyles of Korean and American students
	12:00 ~ 12:50	カナダ人教員による講義&ワークショップ 5, 6年生対象に社会、数学をどのようにCBI(content-based instruction)で教えるか Topic: How do Korean students compare to American students?
	12:50 ~ 14:00	釜山外国語大学校カフェテリアでの昼食
	14:00 ~ 16:50	Dr. Brown (Assistant Professor, The University of Tennessee) による講義 Content-based ESL Curriculum and Instruction
8月7日(火)	9:00 ~ 11:50	Dr. Brown (Assistant Professor, The University of Tennessee) による講義 Frameworks of Thematic Unit Lesson Plans (TULPs)
	12:00 ~ 12:50	テネシー州のESL教員(Emily)による講義&ワークショップ 3 ~ 5年生に理科をCBI(content-based instruction)でどのように教えるか Topic: Plants Structures and Functions
	12:50 ~ 14:00	釜山外国語大学校カフェテリアでの昼食

日	時 間	内 容
	14:00 ~ 14:50	テネシー州のESL 教員 (Emily) による講義&ワークショップ 3 ~ 5 年生に理科を CBI (content-based instruction) でどのように教えるか Topic: Plant Cell
	15:00 ~ 15:50	テネシー州のESL 教員 (Kristin) による講義&ワークショップ 1, 2 年生に算数を CBI (content-based instruction) でどのように教えるか Topic: Time marches on; years, months, weeks, days, hours, minutes, seconds
	16:00 ~ 16:50	テネシー州のESL 教員 (Kristin) による講義&ワークショップ 1, 2 年生に算数を CBI (content-based instruction) でどのように教えるか Topic: Around the clock ;
8月8日(水)	9:00 ~ 9:50	テネシー州のESL 教員 (Michelle) による講義&ワークショップ 「芸術」をいかに CBI (content-based instruction) で教えるか Texture and Form
	10:00 ~ 10:50	テネシー州のESL 教員 (Michelle) による講義&ワークショップ 「芸術」をいかに CBI (content-based instruction) で教えるか Space, Perspective and Value
	11:00 ~ 11:50	カナダ人教員による講義&ワークショップ - 6年生 Physical Education (保健) をどのように CBI (content-based instruction) で教えるか - Topic: What foods do I eat?
	12:00 ~ 12:50	カナダ人教員による講義&ワークショップ 6年生 Physical Education (保健) をどのように CBI (content-based instruction) で教えるか Topic: What foods should I eat?
	12:50 ~ 14:00	釜山外国語大学校カフェテリアでの昼食
	14:00 ~ 16:50	Dr. Brown (Assistant Professor, The University of Tennessee) による講義 Thematic Unit Lesson Plans (TULPs) の実践例
	8月9日(木)	9:00 ~ 11:50
12:00 ~ 12:50		テネシー州のESL 教員 (Emily) による講義&ワークショップ 3 ~ 5 年生に理科を CBI (content-based instruction) でどのように教えるか Topic: Photosynthesis (光合成)
12:50 ~ 14:00		釜山外国語大学校カフェテリアでの昼食
14:00 ~ 14:50		テネシー州のESL 教員 (Emily) による講義&ワークショップ 3 ~ 5 年生に理科を CBI (content-based instruction) でどのように教えるか Topic: Plant Reproduction
15:00 ~ 15:50		テネシー州のESL 教員 (Kristin) による講義&ワークショップ 1, 2 年生に算数を CBI (content-based instruction) でどのように教えるか Topic: Time marches on ; Time Schedules
16:00 ~ 16:50		テネシー州のESL 教員 (Kristin) による講義&ワークショップ 1, 2 年生に算数を CBI (content-based instruction) でどのように教えるか Topic: Time marches on ; All Day Long
8月10日(金)	9:00 ~ 9:50	カナダ人教員 (Pauline) による英会話実践講座 Text: Top Notch を使って
	10:00 ~ 10:50	アメリカ人教員 (Jacob) による英会話実践講座 「Environment」をトピックにしてサマライズなど
	11:00 ~ 11:50	アメリカ人教員 (Daniel) による英会話実践講座 Reading and Discussion
	12:00 ~ 12:50	アイルランド人教員 (Pauline) による英会話実践講座 Hypothetical guessing
	13:00 ~ 16:50	Field Trip 外国人教員を囲んで昼食をとりながら実践英会話練習、書店での児童英語関連図書の検索などプレゼンテーションに向けた準備